



巻頭言／オンリーワン・ナンバーワン事業を磨き責務を果たす — 2
 看取り分野で優秀賞—介護知識・技術レベルの高さ示す
 — オールジャパンケアコンテスト ————— 3
 — 斉メール配信システムに切り替え—緊急情報伝達 ————— 3
 ポジティブに経験重ねよう—30年度新規採用者(高齢部門)“内定式” — 3
 世代間交流・地域貢献 ————— 4~6
 世代をつなぐ—子どもたちと高齢者の交流盛ん
 園児や地域の保護者招き救命救急講習会 千里丘愛育園
 「災害対応型図上訓練」—地域と合同防災訓練 岩戸ホーム
 「在宅で役立つ薬の話」—ライフ・ステージ 舞夢 オープンデイ
 研修・人材育成 ————— 7
 役割と意義学ば—チューターステップアップ研修
 立腰は集中力アップにつながる—3法人合同研修
 先輩からのメッセージ
 トピックス ————— 8

歴史に触れた今城塚古代歴史館見学 ココリスのご利用者7名(生活介護)ら



ココリスでは7名(生活介護)のご利用者とスタッフ7名で施設の送迎車両を利用し高槻市立今城塚古代歴史館(高槻市)へ見学に出かけました。(11月14日)古墳づくりのさまざまな工夫を実物大のジオラマ模型や映像も用いながら解説、実物の埴輪(はにわ)や出土品を見ながら歴史に触れた一日となりました。児童(児童発達支援・放課後等デイサービス)の外出活動は近隣公園散策のほか、異年齢間でも交流できる活動を実施しています。

大阪の社会福祉向上に尽力 優良施設として表彰される



第二愛育園は大阪国際交流センター 大ホールで開催された「平成29年度大阪府社会福祉大会」で、大阪府社会福祉協議会の小西禎一会長から、社会福祉の向上に貢献した社会福祉事業施設(創立15年以上の優良施設経営)として表彰されました。(11月17日)
 これを機にスタッフ一同、あらためて誰もが安心して暮らせる地域社会を築くため、一層地域に根差した保育施設を目指していきたいと考えています。
 ~第二愛育園~

「楽しいとこに飛びたい会」発足 外出リクリエーション企画 総勢16人で紅葉狩り

高槻けやきの郷では「楽しいとこに飛びたい会」というユニークなネーミングの委員会を発足させ、外出レクリエーションを企画、実施。ご利用者(特養)7名とご家族、介護スタッフら計16名で施設の送迎車両を利用し訪れたのは紅葉たけなわの「清水寺」(京都市)。(11月15日)
 昼食は円山公園で京の味覚を盛り込んだ幕ノ内弁当にみなさん大喜び。清水寺では外国人観光客も多く大賑わい。ご利用者のなかには記念にと紅葉を拾ってポケットに入れられる方もありました。
 ~高槻けやきの郷~



ユニホームも新たに愛育園スターズが3位に 北摂ブロック保育部会職員バレーボール大会

成光苑保育部門のバレーボールチーム、愛育園レインボーズ、愛育園スターズの2チームは、箕面スカイアリーナで開催された第36回北摂ブロック保育部会職員バレーボール大会(主催:北摂ブロック保育部会)に出場、愛育園スターズが3位入賞を果たしました。(11月26日)
 ユニホーム、ボールを新たに購入し、仕事終わりに毎週練習に励んだ成果です。愛育園スタッフの応援もあり、スタッフ間の親睦も深めることができました。



- 〔法人理念〕**
 1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
 2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
 3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。
- 〔サービス目標〕**
 1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
 2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。
- 〔老人施設経営方針〕**
 1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
 2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
 3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。
- 〔愛育園経営方針〕**
 1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
 2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
 3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。



巻頭言



福祉のオンリーワン・ナンバーワン事業を
磨き責務を果たす

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと存じます。日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進に皆様の多大なご協力とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

プラス成長で懸念される福祉人材確保

この5年間のアベノミクス効果により、我が国の経済停滞が解消されてきている状況です。この間、実質GDPはプラス成長を続け、企業収益は過去最高の水準、有効求人倍率も初めて47都道府県で1倍を超えましたが、その結果、福祉労働者の人材確保が懸念される局面となっています。

少子高齢化という最大の壁に立ち向かうため「新しい経済政策パッケージ」が昨年12月8日に閣議決定され、「生産性革命」と「人づくり革命」を車の両輪に、2020年に向け取り組みのことであります。

今月から外国人留学生を介護現場に

このような国の動きに合わせて成光苑では引き続き、喫緊の課題である人材確保に重点的に取り組みたいと思っております。

介護部門では、検討を進めてきた専門学校との連携による外国人(ベトナム人)留学生の受け入れについて、本年1月23日から、介護福祉士の

資格取得を目指し学生生活をスタートする留学生(4名)を、介護現場でアルバイトとして受け入れることにしました。併せて、介護技能実習制度に基づく受け入れも着実に進め、受入機関との緊密な連携のもと、平成31年1月の受け入れを目標にしています。

5愛育園で第三者評価を受審

保育部門では、保育士などの技能、経験に応じた処遇改善の仕組みが構築された国の施策に対応、新たなキャリアアップ体制の整備や働きやすい職場づくりを進めたいと考えています。また、本年3月中には5つの愛育園で、当事者(事業者及び利用者)以外の公正・中立な第三者機関が専門的かつ客観的な立場から事業所の運営管理や提供するサービスを評価する第三者評価を受審する予定です。

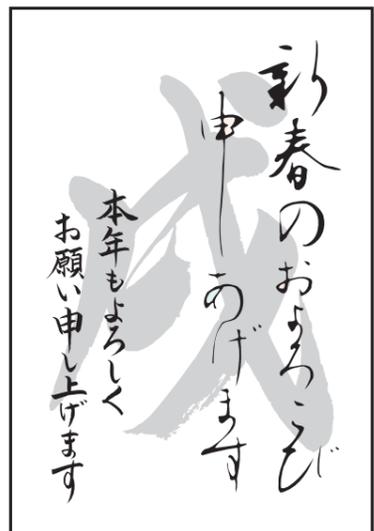
高齢者部門の施設整備進む

本年は高齢者部門の施設整備が進捗する予定です。高槻げやきの郷のサービス付き高齢者向け住宅(4月新規開設予定)が2月に竣工予定のほか、昭和54年に開設した岩戸ホームの老朽化による全面改築も4月に完了予定となっております。成光苑では今後、老朽化などによる施設について中長期的視点から整理し施設整備5

カ年計画を策定、将来の資金需要を見通し安定的経営を目指したいと考えています。

さらなる展開―地域福祉の拠点・子育て支援
成光苑では基本理念に基づき、社会福祉法人の使命を果たせるよう、高齢者施設は地域福祉の拠点施設となること、保育部門では待機児童問題解決のため、地域子育て支援事業のさらなる展開を進めたいと考えています。

今年もよろしく
お申し込み申し上げます



～先輩からのメッセージ～

HPで見た立腰に
取り組む真剣な姿に感動



認定こども園一津屋愛育園
円城寺 有紗 平成29年度入社

子どもの無限の可能性を身近にやりがい実感

学生時代に成光苑のホームページを見て、立腰・漢字あそび・英語あそびなど様々な取り組みを知りました。立腰がどういったものか知りませんでした。実際に子どもたちが真剣に取り組む姿にとっても感動しました。

現在、0歳児の担任をしていますが、立腰を含め少しずつできることが増えてきた子どもたち、その無限の可能性を身近で見守ることができ、「保育者になってよかった!」とやりがいを実感しています。

今後も保育を通じて成長していきたいと思っています。

障がいを持った子と
「できる喜びを一緒に見出したい!」



ココリス
堺 早苗 平成29年度入社

児童指導員として自信を培う日々

ココリス(摂津市)は、障がいを持った方(未就学の児童~64歳)が通所利用される多機能型事業所です。

私は、児童指導員として主に児童と関わりながら日々の成長を見守っています。「障がいがあるから可哀そう」ではなく、「できる喜びを一緒に見出したい」という思いで頑張っています。

一年目で不安もありましたが、先輩スタッフにフォローされ、少しずつ仕事にも自信が持てるようになってきました。多機能型事業所で様々な年齢の利用者とも関わることができ、それもこの仕事のやりがいになっています。

身体に受ける影響が心にまで響く

3法人合同研修

成光苑保育部門と社会福祉法人クムレ(岡山市)、同白鳩会(東大阪市)の第6回3法人合同研修が認定こども園一津屋愛育園で行われました。(11月8日)

外部講師に原浩介氏を招き、メインテーマは「漢字あそびと立腰について」。当法人からは計22名が参加、原氏は講演で「立腰をすると、その正しい姿勢が集中力アップに繋がる。身体に受ける影響が心にまで影響を与える」と述べられ、基本を振り返るよい機会となりました。

講演のあと、園児が漢字あそびに取り組んでいる様子を参加者に見学してもらいました。真剣な表情で集中している園児に「頑張ってるね」と他法人の先生から声をかけられ、子どもたちもうれしそう。午後には参加者が4グループに分かれグループ討議。保育環境や支援が必要な子どもへの配慮方法など参考になる意見が寄せられました。



「漢字あそびと立腰」テーマに

「ぶれない漢字指導は基本を
しっかり身につけること」と山崎氏

園長・中堅スタッフ対象に漢字教育の実践研修

成光苑保育部門では、きりん夜間愛育園ホールで、山崎美知子氏(日本漢字教育振興協会)を講師に招き「指導する立場として教える際のポイントや技術を身につけていく」をテーマに園長・中堅保育スタッフ(30名)を対象に漢字教育研修を行い、学びました。(12月2日)

午前の部の実践発表で山崎氏は、漢字カードの貼り方、抑揚をつけた読み方やスピードなどを直接指導されました。丁寧な言葉かけや声の抑揚からも実践的な技術をあらためて学ぶ機会になりました。

研修の最後に山崎氏は「ぶれない漢字指導を実践するには、指導者が基本をしっかり身につけることが大事」と述べられ、参加スタッフの真剣な表情が印象的でした。



新人スタッフを迎え、育てる役割は重大



チューターステップアップ研修に16名参加

成光苑高齢者部門では、増田知乃氏(有有限会社レイズ人材育成コンサルタント)を講師に招き「チューターステップアップ研修」をライブ・ステージ舞臺で実施、16名が参加しました。(11月2日)

インフル対応など実技交え学ぶ
外部講師招き「感染症予防研修」



せつつ桜苑では外部講師を招き「感染症予防研修」(11月7日と9日)を実施しました。今後予想されるインフルエンザやノロウイルスなどの感染症が流行する前に、最新情報や予防接種の有効性、さらにノロウイルスに感染した際の処理方法などについて、実技を交えた充実した研修内容となりました。

せつつ桜苑

初の「災害対応型図上訓練」を実施

災害予測、地域防災環境の把握など 12回目迎えた岩戸ホームと地域の合同訓練



岩戸ホームは、地元鴨野町自治会と地震発生時の火災を想定した合同防災訓練を実施しました。(10月15日)

台風23号(平成16年)被害の教訓から第1回目の合同訓練(同18年)が始まり、今回で12回目。マニュアル訓練後に地域のみなさんと周辺地区を囲み、知り得た情報を議論しながら災害対策について考えるトレーニング「災害対応型図上訓練」を初めて試みました。地域防災環境の把握や被害予測、災害時の備えなどの情報共有、救命訓練、消火栓放水訓練、救助機材取扱訓練など、より実践的な訓練を行いました。

この訓練は、地域のみなさんとの相互協力体制を確認する機会でもあり、引き続き防災意識を高めていきたいと思っております。

プラバン作りや駄菓子売りに出展 岩戸ホーム、サンヒルズ紫豊館合同で介護の日イベント



岩戸ホームとサンヒルズ紫豊館は合同で、JR福知山駅前で行われた介護の日のイベント「福知山民間社会福祉施設連絡協議会主催」に、プラバン作りと駄菓子売りに出展参加しました。(11月11日)

高校生の吹奏楽と和太鼓演奏、福祉施設スタッフによるバンド演奏もあり大賑わい。地域のみなさん、ご利用者との親睦を深めるとともに、次世代の若者に福祉の仕事への理解や活動をアピール、介護人材確保にも繋がる参加となりました。

岩戸ホームではまた、福知山市鴨野町自治会と共催でオープンデイを開催(11月19日)。介護相談や地域合同で実施している「かも工房(陶芸教室)」で製作の作品展示・販売や陶芸体験(こけ玉作り)を鴨野町集会所で行い、あんまん・ジュースなども販売しました。

作品展に出品し市長から表彰状 摂津市主催の介護の日啓発イベント

せつ桜苑は、摂津市コミュニティプラザで行われた摂津市主催の介護の日啓発イベント「いいね 知っとこ 介護のこと」の作品展にご利用者の「フクロウのバッチワーク」「家山子の張り絵」などの作品を出品参加し、森山一正摂津市長から表彰状(第2位)を授与されました。(11月12日)

このイベントは、摂津市内の複数の介護事業所が協働、「介護が身近なものであること、さまざまな立場の人が介護に関わる可能性があること」を感じ、ステージイベントや体験コーナーを通して、「介護について考えてみよう」というのがねらい。当施設はイベントの中心的役割を担っています。

薬剤師招き「在宅で役立つお薬の話」など オープンデイに41名参加

ライブ・ステージ 舞夢

ライブ・ステージ 舞夢では、介護の日のイベントとして、地域のみなさんに施設を身近に感じてもらうことを目的にオープンデイを開催、41名が参加されました。(11月11日)

第1部では、地域の調剤薬局から薬剤師を講師に招き「在宅で役に立つお薬の話」クスリとカラダのいろいろな関係」をテーマに「ジェネリック医薬品」「残薬の問題」などのほか「薬剤師の活用方法」、さらに健康食品と薬の関係なども講演されました。

参加者アンケートで「高齢者福祉施設でわかりやすく医療関連の講演をすることは、地域住民(高齢者)も参加できるので大変よい取り組みだ」と好評でした。

第2部は福祉用具メーカーの協力で「触れて納得!福祉用具体験・相談会」を実施。施設見学もを行い、各ユニットのイベントの様子や過去の台風時の復旧活動の様子をポスターセッションで掲示しました。



住み慣れた地域で活気ある生活を願い 高槻けやきの郷

4回目を迎えた「元気まつり」

高槻けやきの郷では地域福祉推進会議が企画する「第4回元気祭り」を開催、福祉用具メーカーにも協力してもらい、住み慣れた地域で活気のある生活を送っていただくための提案や介護に関する講座を実施しました。(10月21日)

あいにくの天候(雨天)でしたが、地域から多くのみなさんが来場され「こんな便利な福祉用具あるんやね」「講義がわかりやすく勉強になったわあ」と喜びの声が聞かれました。昼食では、「けやきの郷特製うどん」に行列ができた好評ぶりでした。



介護知識・技術レベルの高さを示す

「習得すべきことはまだまだ多い。学ぶ姿勢を忘れずに」と井上さん

「看取り分野」(A部門) 優秀賞 岩戸ホーム 井上 裕太さん



第8回オールジャパンケアコンテスト(10月7日、主催:社会福祉法人こうほうえん)が鳥取・米子コンベンションセンターで行われ、成光苑の高齢者施設から計6名が選手出場、「看取り分野」(A部門)で最高の優秀賞に輝いた井上裕太さん(岩戸ホーム)はじめ計3名が見事入賞を果たし、当法人の介護知識・技術レベルの高さを示しました。

「認知症分野」(B部門) 奨励賞 高槻けやきの郷 横田 菜摘さん



他の入賞者は▽奨励賞(B部門、口腔ケア分野)須知 一歩さん(サンヒルズ紫豊館)▽奨励賞(B部門、認知症分野)横田菜摘さん(高槻けやきの郷)。同コンテストは経験年数(A部門)5年以上、B部門5年未満(一部)に応じて2部門6分野で介護の知識や技術を実技形式で競うもので、全国から約110名の選手が出場しました。

「口腔ケア分野」(B部門) 奨励賞 サンヒルズ紫豊館 須知 一歩さん



成にも生かしてほしい」と出場選手を激励されました。

優秀賞を受賞した井上裕太さんは「賞をもらええると思っていなかったので素直に嬉しいです。まだまだ習得しないといけないことがたくさんあるので、今後も学ぶ姿勢を忘れないようにしたい」と決意を新たにしています。

同コンテストは単に介護の知識技術を競うだけでなく、全国各地で同じ仕事を頑張っている仲間と出会い、交流することができる貴重な機会にもなっています。

「ポジティブに経験を積み重ねよう」と高岡理事長が激励



認定こども園 一津屋愛育園Bチーム 第二愛育園Aチーム

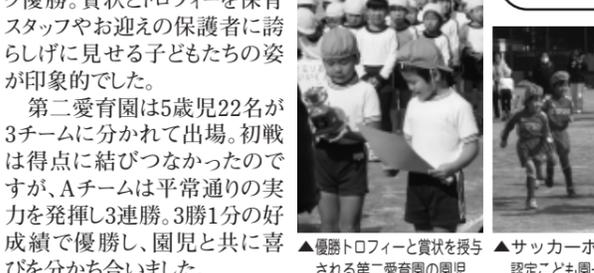
快挙! そろってブロック優勝!! サッカー摂津カップフレンドリーマッチ

認定こども園一津屋愛育園と第二愛育園は摂津市青少年運動広場で行われたサッカーの第10回摂津カップフレンドリーマッチ(摂津市保育連盟主催)に出場、一津屋愛育園のBチームと第二愛育園のAチーム(いずれも5歳児)がそれぞれブロック優勝を果たしました。快挙です。(11月16日)

この大会は14ヶ園44チーム(327名)を8ブロックに分け、1ブロック5、6チームでリーグ戦を行いブロックごとに優勝を競います。

一津屋愛育園の5歳児27名のうちBチームがブロック優勝。賞状とロフィーを保育スタッフやお迎えの保護者に誇らしげに見せる子どもたちの姿が印象的でした。

第二愛育園は5歳児22名が3チームに分かれて出場。初戦は得点に結びつかなかったのですが、Aチームは平常通りの実力を発揮し3連勝。3勝1分の好成績で優勝し、園児と共に喜びを分かち合いました。



▲優勝トロフィーと賞状を授与される第二愛育園の園児 ▲サッカーボールを追う認定こども園一津屋愛育園の園児たち

30年度新規採用者(14人)の内定式

先輩スタッフからは「バックアップするよ」のエールも

成光苑(高齢者部門)の30年度新規採用者14名(うち学校都合により欠席1名)の内定式が愛育会館で行なわれ、高岡園土理事長は「結果を意識し過ぎて大切的、消極的にならないことが大切。ポジティブであれば豊富な経験を積み重ねることができると内定者を激励されました。(12月17日)

法人事務局長・各施設長の挨拶に続き、先輩スタッフからは「学生時代にしかできないこと、やり残しが残らないようにしてほしい。入社1年目は慣れないことから不安もあると思うが、私たち(先輩スタッフ)があなた方を必ずバックアップフォローするので一緒に頑張ろう!」と頼もしいエールを送りました。

内定者の自己紹介では「私は〇〇色な人で、一言PR、オレんじ(明るい)、一日(何色でも染まる)、ピンク(家事が好き?)から「みどり」(自然が好き)などユニークな表現も、自分の長所を生かして、成光苑のスタッフとしての活躍が期待されます。

緊急時の情報伝達、一斉メール配信システムに切り替え 「スピードアップと正確性が格段に向上」災害などに備え京都エリア3施設

岩戸ホーム サンヒルズ紫豊館 ライフ・ステージ舞夢

成光苑京都高齢者3施設(岩戸ホームサンヒルズ紫豊館ライフ・ステージ舞夢)は29年11月から災害時など緊急時の情報伝達手段を、緊急連絡網による電話伝達から一斉メール配信システム(ICT化)に切り替えました。情報伝達のスピードアップと正確性を向上させるのが狙い。

これまでは電話で伝言ゲームのような伝達方法だったのに対し、PC端末またはスマートフォンから同一内容を、メール・LINEに登録しているスタッフ全員に一斉メール配信します。緊急時に使用するシステムですから、本来そのような機会がないことが望まれますが、万が一の時に備え、確実に情報伝達が行えるよう普段から訓練を怠らないことが重要。

同エリアでは、災害時に迅速かつ適切な対応ができる施設となり、ご利用者やご家族・地域住民のみなさんに「層安心」してもらえる態勢を整えたものです。

「すいたCUP」ではきりん夜間愛育園5歳児が準優勝

きりん夜間愛育園5歳児6名が吹田市総合運動場で行われたサッカーの第30回すいたCUP(吹田民間保育園サッカー連盟主催)に出場し準優勝しました。(11月2日)

園児たちは後日、高岡園土理事長を訪問し「よく頑張ったね」と言葉をかけてもらい、次の大会に向け意欲満々の表情でした。



世代をつなぐ “子ども達と高齢者のさかんな交流”

地域の保護者も参加され 救命救急講習会

千里丘愛育園



《消防署員招き心肺蘇生法や誤飲の対応など》

千里丘愛育園では、子育て支援室に
摂津市消防署員3名を招き、園児や
地域の子どもの保護者を対象に救命救
急講習会を実施しました。(10月28日)
昨年度は園児の保護者が対象でし
たが、さらに多くの方に知ってもらおう
と今年も参加対象者を広げ、ベビー
ヒールに参加されている地域の保護
者(父親1名、母親4名)も参加さ
れました。
成人や乳児の練習マネキンを用い
て、心肺蘇生法(二次救命処置)やAED
の扱い方を消防署員から指導を受け、
「誤飲の対応」についても吐き出し
方など丁寧な指導を受けました。今回
は父親の参加もあり「初めての体験で
したが、消防士から直接レクチャーを受
け、緊張感を持って取り組むことができ
た」といった感想が寄せられました。

せつつ桜苑を訪ね世代間交流 ～認定こども園一津屋愛育園の5歳児～

認定こども園一津屋愛育園の5歳児29名が、成光苑特別養護老人ホーム「せつつ桜苑」を訪ね、ご利用者の皆さんと交流会を行いました。(10月23日)
子どもたちは鼓隊演奏や歌を披露、肩たたきをするなどご利用者と触れ合い、楽しいひと時を過ごしました。同施設のスタッフからのサプライズで「(アンパンマンの)サンサン体操」が披露され、子どもたちも大喜びでした。



近隣の高齢者招き食券(無料引換券)を配布 新メニュー「どて焼き」即完売の盛況 「くるみふれ愛っこまつり」



くるみ愛育園では恒例の「くるみふれ愛っこまつり」が行われ、近隣の高齢者の方には食券(無料引換券)を配りイベントに招待しました。(11月12日)

保育スタッフが、絵本(ばけけけくんの)キャラクターを参考にした模擬店のメニューに変身、オープニングから会場は盛り上がり、新メニュー「どて焼き」は大人気で即完売となりました。

高齢者のみなさんからは「どれも美味しく、楽しかったよ」と喜びの声が聞かれました。卒園児や地域の親子連れも多く来場され賑やかな雰囲気でした。

東生野愛育園の5歳児29名は、近隣にある高齢者グループホームで開催されたクリスマス会に初めて参加、子どもたちは歌とダンスを披露し高齢者のみなさんと一緒に触れ合い遊びを楽しみました。(12月15日)

高齢者のみなさんは、「とりゃんせ」の歌を口ずさまれ涙ぐむ方、触れ合い遊びの肩たたきに笑顔で子どもたちの小さな手を包みこまれるなど喜ばれました。
短い時間でしたが、世代間交流を楽しめたクリスマスのひと時を過ごしました。



高齢者グループホームのクリスマス会に初めて参加 東生野愛育園 5歳児

3歳児がせつつ桜苑へ 2歳児は吹田竜ヶ池ホームへ

第二愛育園



第二愛育園の3歳児33名は成光苑グループの特別養護老人ホームせつつ桜苑を訪ね、「とんぼのめがね」や「虫の声」の歌を披露し、「幸せなら手をたたこう」の曲に合わせてふれあい遊びを楽しみました。(10月3日)

施設に入居されている高齢者の女性と抱き合ったりハイタッチしたり。手作りのメダルを首にかけてプレゼントすると、みなさん、たいへんよろこばれました。

また、2歳児39名が同じグループの特養吹田竜ヶ池ホームを訪ね、「まつぼっくり」や「どんぐりころころ」の歌をご利用者と一緒に歌いました。(10月20日)
「小さいのに上手だね」とご利用者から褒められ、園児からメダルをプレゼント。いずれも世代間交流の一環です。

歌を披露しメダルをプレゼント

さあ、来年は みんな仲間だ!

摂津市正雀・三島地域7ヶ園の5歳児が集う

認定こども園正雀愛育園



摂津市の第一中学校区、正雀・三島地域にある認定こども園正雀愛育園はじめ認定こども園、保育園の全7ヶ園が同愛育園に集い交流会が開かれました。(11月6日)

来年度、同じ学校に通う子どもたち(5歳児)が体操やゲームと一緒に楽しむ予定です。ジャンケン列車や爆弾落としゲーム、オセロゲームを各園との混合でチームを組みました。

初対面で初めは恥ずかしそうなお子どもたちでしたが、自分から仲間に入ってゆく積極性も見られました。小学校に進学するという自覚も持つことができたようでした。

高齢者の集まりの場にサプライズ訪問 ～小さなサントさんに なって歌を披露～

きりん夜間愛育園

きりん夜間愛育園の5歳児6名は、近隣の長野町会館にある高齢者の集まりの場「喫茶みなみ山田」(毎月第1・3木曜日12:00～15:00)に、小さなサントさんになってサプライズ訪問しました。(12月21日)この年2回目です。

地域の高齢者のみなさんと交流の機会を持ちたいと財津久美子園長が模索していたところ、卒園児の祖母から情報が寄せられ実現しました。この日はクリスマスソングを歌ったりミュージックベルを演奏。「可愛いね」「上手だったよ」とみなさんから声をかけられ、子どもたちもうれしき一杯、笑顔が広がりました。



恒例の「楽しく遊ぼう」開催

園児の祖父母や地域老人会の みなさん88名を招待

認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園は摂津市立正雀体育館で、園児の祖父母と地域の老人会のみなさん88名を招待し、恒例の「楽しく遊ぼう」を開催しました。(11月7日)

乳児はリズム遊びやかけっこ、3歳児はお年寄りと一緒に玉入れ、4歳児はパラバルーン、5歳児は和太鼓演奏を披露しました。触れ合い遊びでは、おじいちゃん、おばあちゃんと手を握ったり、抱き合ったりと微笑ましいひと時を過ごしました。

老人会のみなさんからは、昔ながらの手作り紙飛行機や竹とんぼを作ってもらい、園児たちは大切に持ち帰りました。



本物そっくりのユニホームや 道具を使い、ステージにも立ったよ!

キッズニア甲子園でお仕事体験 東生野愛育園

東生野愛育園の5歳児29名は電車乗り継いで「キッズニア甲子園(ららぽーと甲子園)」に初めて行きました。(12月19日)
「キッズニア甲子園」は子どもたちが好きな仕事にチャレンジし、楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができる職業疑似体験型アトラクション。体験したい仕事を事前に家庭でも相談し、当日6グループに分かれて仕事体験をしました。
エンターテイメント(演芸ショー)では実際にステージに立ち、ファッションショーやお笑いライブにも出演。消防士、ガードマンも本物そっくりのユニフォームや道具を使って体験。企業、パティオの飲食店では寿司やピザを実際に作って食べる



こともできます。子どもたちがいろいろな仕事に興味を持ち体験を通して将来の夢に繋がるきっかけになればと思っています。